



大鳥大社由緒略記

(通称大鳥さん)



一、境内

面積一万五千余坪、種々の樹木繁茂して洵に鬱蒼たる森で、往古白鳳が飛来して、この地に止まり、一夜にして種々の樹木が繁茂したとの伝へから、千種の森の名があり、珍しい木が育っております。

その外、境内には平清盛が熊野参詣の途次、平治元年十二月当社に祈願して詠んだ

かひこそよ かへりはてなば

飛びかけり はぐくみたてよ大鳥の神

の、歌碑があり、明治初年当社の大宮司であった富岡鉄斎翁の筆になるものです。

境内は千種の森の名に違はず、種々の樹木繁茂して、殊に春は吉野桜を始め、全国より集めた岡山、天の川等の里桜が、五月は平戸つ、じが真紅に社頭を彩り、六月中旬には菖蒲苑に明治神宮並に下坂氏の御寄贈の花菖蒲約百余種妍を競いて妙趣ありとの評を戴いております。

一、境内神社

撰社 美波比神社

御祭神 天照大神

相殿 菅原道真公

(由緒) 本社の境内東側に鎮座、もと当社は北王子村御鎮座であつたのを明治十二年に現在地に御移したものであります。

主神の外七柱を合祀申し上げます。

撰社 大鳥北濱神社 (堺市浜寺元町三丁鎮座)

御祭神 吉備穴戸武媛命 (景行天皇の妃)

撰社 大鳥濱神社 (高石市羽衣鎮座)

御祭神 両道入媛命 (日本武尊の妃)

撰社 大鳥井瀬神社

御祭神 弟橘姫命

(由緒) もと、当社は大鳥郡八田莊村大字堀上大明神山に鎮座され

ていたが、明治四十一年に堺市宿院にある本社の御旅所にお遷しし、今日に至っております。

一、恒例祭

一月一日	元旦祭	六月中旬	菖蒲祭
一月三日	元始祭	六月三十日	大祓式
一月の第二月曜日	成人祭	七月三十一日	夏祭
二月三日	節分祭	九月二十三日	秋分祭
二月十一日	紀元祭	十月五日	撰社例祭
二月十七日	祈年祭	十一月三日	明治祭
三月五日	火鎮社祭	十一月西の日	西の市神事
三月十五日	増祀記念祭	十一月二十三日	新嘗祭
三月二十日	春分祭	十一月二十八日	冬季祭
四月十三日	花摘祭	十二月二十三日	天長祭
五月三日	憲法記念祭	十二月三十一日	除夜祭
五月五日	子供の日祭	同	大祓式
		毎月一日・十五日	月次祭

一、神社名 大鳥大社

一、鎮座地 大阪府堺市西区鳳北町一丁一番地

一、御祭神 日本武尊（ヤマトタケルノミコト）

大鳥連祖神（オホトリムラジノミオヤノカミ）

一、例祭 八月十三日

一、由緒沿革

当社は醍醐天皇延喜式神名帳所載の名神大社であり、月次新嘗の官幣に預かり、和泉国の一の宮として、歴代皇室の御尊崇極めて篤く殊に防災雨祈の御祈願社八十五社の一であつて、屢々臨時奉幣に預かり、御神階も清和天皇貞観三年七月には従三位に叙せられ、後正一位に御昇階になりました。

御祭神日本武尊様は景行天皇の第二皇子で、その武勇は広く知られているところでありますが、社伝によりますと日本武尊が東夷御征討の帰途、俄に病にお罹りになり、伊勢国能褒野に於て薨去遊ばされ、その御屍は白鳥と化して飛び去り給ひ、最後に当所に来り留まられましたので、社を建立して尊様をお祀りしたのが当社の起源であつて今から約一、八五〇有年前であります。

又、大鳥連祖神様は、此の和泉国に栄えた神別であられ大中臣と祖先を一にする。

大鳥氏と言う部族の先祖をお祀りしたもので、新撰姓氏録には天児屋根命を祖先とすると伝えられて居ります。当社は明治四年五月祭神日本武尊として官幣大社に列格になりましたが、明治九年一月天覽に供しました官社祭神考証に於ては、祭神大鳥連祖

神とせられ、明治九年以来この説が公のものとしてせられていたので、爾来当社歴代の

宮司は度々御祭神の御変更方を稟請致しましたが、遂に明治廿九年十月三日付を以て、「上奏相成候官社祭神考証に於て大鳥連祖神と確定相成居候条左様御承知有度」との時の内務省社寺局長の通達回答がよせられて、当時としてはこれ以上は神社側の主張を通ず方法はなかつたのでありましたが、偶々昭和三十三年六月廿八日付にて、祭神日本武尊増祀の御允許を得ることになり、茲に御祭神に関する問題も決裁し日本武尊様を主祭神とする式座の御社となり、御神慮に御応へ申すことが出来たのであります。

御祭神の御神徳は文武の神として、累代の武家の崇敬が篤く、平清盛、同重盛父子が熊野参詣の途次、当社に祈願し、和歌及び名馬を奉献したのを始めとして、織田、豊臣、徳川の三武将も社領の寄進、社殿の造営等を再度に亘って奉仕して居ります。又、聖武天皇の御宇には、僧行基が勅願を奉じて、この地に勸学院神鳳寺を建立しましたが、明治維新の神仏分離によって廃寺となりました。

一、社 殿

本殿は大鳥造と申しまして、神社建築史上一種の様式を保っており、その構造は出雲の大社造に酷似しており、切妻造、妻入社殿で出雲大社造に次ぐ古い形式を今日に伝えております。

社殿は天正年間の兵乱によって炎上し、慶長七年豊臣秀頼によって再興せられましたが、更に寛文二年には徳川家綱の命によって堺町奉行石河土佐守の手によって再建され、明治三十五年には特別保護建造物に指定されましたが、同三十八年八月に雷火の為に再度炎上し、現社殿は明治四十二年に従来の形式通りに再建されたものであります。

昭和九年国費で御屋根替、更に昭和三十六年御祭神日本武尊御増祀の為、造営奉賛会の手によって内部の模様替と原型解体に近い大修理が行われました。

一、鳳仙園及び菖蒲苑由緒

右は昭和三十一年七月当大社中の島附近の沼沢地帯を利用し、花菖蒲を植栽した時をきっかけに現在の様に整備拡充し、更に四十五年二月大池の埋立地を卜して造園を計画し、村木、小西両氏合作、施工の許に四十六年六月初旬完成したので御座います。

